

# 令和8年度 学力向上アクションプラン

学校番号 113

江戸川区立大杉東小学校

「全国学力・学習状況調査」平均正答率東京都との差				「江戸川区学力調査」平均正答率全国との差											
学年		第6学年		学年		第3学年		第4学年		第5学年		第6学年			
年度		国語	算数	合計		年度		国語	算数	国語	算数	国語	算数		
令和12年度の目標						令和12年度の目標									
令和11年度の目標						令和11年度の目標									
令和10年度の目標						令和10年度の目標									
令和9年度の目標						令和9年度の目標									
令和8年度の目標		-2	-2	-4		令和8年度の目標		±0	±0	2	±0	±0	±0		
令和7年度の結果		-4	-9	-13		令和7年度の結果		-3.1	-4.8	0.9	-1.2	-6.4	-5.3	-4.4	
令和6年度の結果		-6	-7	-13		令和6年度の結果		-9.4	-10.3	-3.2	-3.8	-8.6	-13.0	-3.5	-8.4
令和5年度の結果		-6	-5	-11		令和5年度の結果									
年度内容		令和7年度 成果と課題				目標				令和8年度 目標達成に向けた取組					
学校全体		<p>(成果) ○国語科では、4～6年生を対象に「YOMUワーク」の取組を行い、初見の文章を読み、考え取組を進めることで「読み」の力を伸ばしてきた。 ○算数科では、年3回のスタディワークの前後で東京ペン・鉛筆の診断テストに取り組み、各学年で児童が課題に応じて取組を進めることができた。 (課題) ○国語科では、学年により課題が異なるが、概ね「書く」「読む」の領域の問題で正答率が低くなっている。特に、「読む」では、A-D層の差が50%以上になっている年がいくつかある。 ○算数科では、どの学年も記述式の問題の正答率が低くなっている。問題の文章を読み理解することに課題がある。</p>				<p>○全学年が区から示されているスタンダードに基づいた授業を実施する。 ○児童の課題を明確にし、習熟度に応じた授業展開と個別指導ができるようにする。 ○国語科では文章を正しく読み取り、自分の考えを分かりやすく表現できるようにする。 ○校内研究を国語科にし、教職員全体の授業力を高め学びのユニバーサルデザインについて理解を深める。 ○算数科では正確に問題把握するために、図や数直線を活用して立式できるようにする。 ○児童の確実な計算力と応用する力を高めていく。</p>				<p>(国語科) ・校内研究を国語科とし「誰一人残さない授業づくり」をテーマに授業研究に励み、年3回の研究発表を実施する。 ・4年生以上よりYOMUワークシートに取り組み、文章を読み取る力を高めていく。読み取った内容から「分かったこと」「考えたこと」「感じたこと」「調べたこと」をノートにまとめ、発表的な学習を進めていく。 (算数科) ・年3回の家庭学習週間の取組、保護者と連携し家庭学習の習慣を固める。診断テストの結果から学習カルテを作成し自己の課題に合った学習に取り組み。 ・全校で「活用」「探究」の内容が充実した学習ワーク「アイテム」に取り組み。 ・放課後学習教室との連携、外部と講師との連携を強化し、児童の課題にあった学習を取り組ませることで基礎基本の定着を図る。</p>					
第1学年		<p>(成果) ○国語科では、平仮名、カタカナ、漢字をグループで復習させ、家庭学習に出したことで、ほとんどの児童が定着した。 ○音読を丁寧に指導したことで、全児童が読のまじりや言葉の響きなどに気を付けて読むことができた。 ○算数科では、線り上がりや線り下りの計算の計算の仕方を繰り返し指導し、年度末に検定も行ったことで、学習の定着につながった。 (課題) ○国語科では、物語から主人公の気持ちを想像し、自分の考えを表現できない児童が2割程度いる。 ○算数科の文章題に苦手意識があり、自分の力で解き進めることが難しい児童が多い。</p>				<p>(国語科) ○基礎的・基本的な学力的な定着を図るとともに、物語の登場人物の気持ちを想像し、自分の考えを分かりやすく表現できる力を育成する。 (算数科) ○線り上がりや線り下りのある計算の確実な習得を図るとともに、文章問題の内容を正しく理解し、自力で解決できる力を育成する。</p>				<p>(国語科) ○平仮名・カタカナ・漢字の復習を、グループ学習や保護者の協力を得た家庭学習を通して継続的にを行い、基礎学力的な定着を図る。 ○音読指導を継続し、読のまじりや言葉の響きを意識して読む力を伸ばす。 ○感じたことや考えたことを友達と伝え合う活動や、短い文で表現する活動を通して、表現力を育成する。 (算数科) ○昨年年度に引き続き、線り上がりや線り下りの計算の計算の仕方を繰り返し指導し、年度末に検定を行う。 ○文章問題に取り組みながら、問題文の読み取り方や式の作り方を丁寧に指導する。 ○図や式、言葉を用いて考えを表現する活動を取り入れ、問題解決力を育成する。</p>					
第2学年		<p>(成果) ○国語科では、言葉プリントを宿題に出して、文と文のつながりを意識させた。その結果、文章の質が高まった。 ○算数科では、診断テストの結果から「かけ算」の正答率が割れていた。検定も行ったことで、学習の定着につながった。 (課題) ○国語科では、自分の考えを表現することが難しい児童が多い。 ○算数科では、診断テストの結果から「図を使って考えよう」と「表とグラフ」の正答率が半分以上であった。</p>				<p>(国語科) ○出来事や自分の気持ちや考えを、話したり書いたりして表現することができる。 ○文と文のつながりを意識し、正しく文章を読み取ることができる。 (算数科) ○たし算とひき算の計算の仕方を理解し、正しく計算することができる。 ○文章問題を正しく理解し、自力で解決できるようにする。 ○かけ算九九を正しく唱えることができる。</p>				<p>(国語科) ○出来事や気持ちを整理して伝えられるように、日記を継続して書く。 ○言葉プリントを宿題に出して、文と文のつながりを意識させる。 (算数科) ○単元の学習終了後も、継続的に練習を続けて行く。 ○文章問題に取り組みときは、わかっていないことや求められていることに着目させ、正しく立式できるようにする。 ○かけ算九九の検定を行い、繰り返し練習させる。</p>					
第3学年		<p>(成果) ○算数科では、診断テストや独自プリントを使用した振り返りを行ったことで、各児童のつまずきを特定できた。 ○国語科では、漢字やローマ字プリントを出して、主にB・C層の定着につながった。 (課題) ○算数科では、位取りを苦手とする児童が多く、小数の加法減法の計算に課題がある。空白を含む計算に課題があり、特に減法の線り下りに関連することがある。 ○国語科では、抽象的な表現を具体的な言葉に代えることを苦手とする児童が多い。 ○読解力が低く、指導指示の内容を十分に理解していない場合がある。</p>				<p>(国語科) ○自分の考えを表現するために必要な読解力をつけ、自分の言葉で言い換えることができる。 ○自分の考えの根拠を明らかに話したり、相手の考えを受け入れたりすることができる。 (算数科) ○何を求めればよいのか文章を正確に読み取り、なぜその式になるのか説明できる。 ○解を導く上で必要な量感を身に付ける。</p>				<p>(国語科) ○読み聞かせ、読書活動の充実。新出語彙を使った書く活動の充実。(作文、日記など) 類語、反対語とセットで学習する。 ○対話を通して考えを引き出したし、整理しようとするために、あいづちや質問の語型を提示し、「聴く」力を身に付ける。 (算数科) ○数のイメージを具体化するために、文章問題を式に表すだけでなく、図や表、言葉など複数の方法で考えるようにする。 ○立式する前にだいたいどのくらいの大きさになるのか予想させ、数のイメージを身近にある具体物に置き換えて考えさせる。</p>					
第4学年		<p>(成果) ○国語科では、漢字や言葉の知識・技能の学習で児童の興味・関心が高まるよう、部首や熟語に着目させながら指導した。学力調査では、基礎の平均正答率で区や全国を上回る結果となった。 ○算数科の区学力調査では、令和6年度調査の結果を振り返り、数のしくみや分数の単元で課題が見られる児童に個別で課題を設定するなど、学年で取組を行った。その結果、どちらの単元でも平均正答率を高めたことができた。 (課題) ○国語科では、応用問題で区平均と比べ、1.3%低くなっている。特に、記述式の問題では区や全国の結果と比べ、約4%低くなっている。 ○算数科では、図形が課題である。平面図形や角、円と球などの単元で区や全国を下回る結果になっている。</p>				<p>(国語科) ○漢字や熟語の意味・知識を広げるとともに、文章を書く際に活用することができる。 ○文章の内容を読み取り、目的に応じた文章を書く力を高める。 (算数科) ○数のしくみや四則演算、小数・分数の計算能力を高める。 ○平面図形や角、円や球など図形単元に関わる単語とその意味を理解する。</p>				<p>○漢字ミニテスト後、グループでテストで出た漢字の熟語について教え合う活動を行う。 ○主に文章を読み取る学習において、全ての児童が発表の機会を持ち、文章を読み取る力と共に表現力の向上を図る。 ○主にYOMUワークシートを活用することで、情報を読み取り自分の考えをもったりする力を高める。 ○特定の物や事象に関する内容を5分間で可能な限り、文章形式で書き進める活動を様々な教科や活動に取り入れる。 ○アイテム(計算ドリル)を学習で活用すると共に、家庭学習での活用を促すことで、基礎的・基本的な計算能力の向上を図る。 ○主に学習課題に即座に対応する学習アイテムを活用することで、学習の定着を図るとともに、基礎的・基本的な計算能力の向上を図る。 ○主に江戸川小スタディワークの際に、図形単元のAドリルやプリントを取り組ませることで、図形に関する単語とその意味の理解を図る。</p>					
第5学年		<p>(成果) ○国語科では主語と述語の関係性を意識した授業を展開した。その結果、文章を書き直す問題(大問5～2)で約4%江戸川区の平均を上回った。 ○算数科では習熟度別の授業をおこなった。図形の問題では具体物を用いて授業を行った。その結果大問2図形の問題で平均を上回った。 (課題) ○国語科では江戸川区平均点から基礎問題が-3%、応用問題が-7%と大幅に差が出てしまった。 ○算数科では江戸川区平均点から基礎問題が-7%、応用問題が-8%と大幅に差が出てしまった。</p>				<p>(国語科) ○主体的対話的な授業実践と個に応じた指導を実施する。 ○分からない漢字や語句、意味など進んで調べ、活用できる語句を増やす。 (算数科) ○単元ごとに習熟度に応じた授業展開を確実に実施する。習熟に応じたプリントや教材を用意し、基礎学力の向上と探究的な学習を実施する。 ○問題把握をし正確に立式し答えを導き出すようにする。</p>				<p>(国語科) ○物語文から登場人物の心情を読み取り、自分なりの言葉で考えを述べるようにする。 ○説明文から筆者の考えや具体例などを読み取り、自分の考えを書くことができるようにする。 ○漢字の定着を図る。 (算数科) ○計算の基礎を定着させる。 ○数直線や図を用いながら文章題を捉え、立式できるようにする。</p>					
第6学年		<p>(成果) ○国語科では学年で課題のある漢字の学習、書くことに関する指導を行った。A、B層の割合が6.5%増えた。 ○算数科では算数検定の授業をおこなった。スタディワークでは、読解力を明確にし、基礎・基本を徹底的に復習した。A、B層の割合が13.9%増えた。 (課題) ○国語、算数科共に、記述式と応用問題に課題が見られた。 ○国語科では記述式の問題の正答率が41.9%と非常に低い値となった。また、応用の問題も正答率が52.7%と低い値となった。算数科では記述式の問題の正答率が37.4%と非常に低い値となった。また、応用の問題も正答率が46.8%と低い値となった。国語、算数科共に問題文を正しく読み取ること、表現力に課題があるとみられる。</p>				<p>(国語科) ○心構えや言葉や心情の変化に着目させる活動を毎時行おう。 ○心の中・中・終わりの別別を整理して行い、説明文を構造的に捉えることができるようにする。 ○漢字テストを毎時実施する。 (算数科) ○基礎の定着を図るため、定期的に計算プリントに取り組みせるとともに、未定着の児童には個別に指導する。 ○文章題で問われている内容を線引き活動を通して行い、図・式・言葉の三つを用いて説明する活動を徹底する。</p>									